

令和7年度第3回京都府公共事業評価に係る第三者委員会の概要について

令和8年4月3日
建設交通部指導検査課

令和8年3月3日に開催しました令和7年度第3回京都府公共事業評価に係る第三者委員会の概要は、以下のとおりでしたのでお知らせします。

- 1 日 時 令和8年3月3日（火）午前10時00分から午前11時00分まで
- 2 場 所 京都ガーデンパレス「祇園」
- 3 出席者 京都府公共事業評価に係る第三者委員会
多々納裕一委員長、河邊大剛委員、岸田潔委員、黒坂則子委員、
三谷茂委員、山口靖弘委員
京都府
建設交通部部長、技監、理事、課長ほか
- 4 傍聴者等 一般傍聴者なし、報道関係者1社
- 5 議事と結果
■主要地方道網野岩滝線（男山バイパス）道路整備事業【事前評価】
「事業着手が妥当」との意見を得た。
<主な意見等>
 - ・緊急輸送ネットワークを構成する重要な路線であり、事業着手は妥当。
 - ・事業の実施にあたっては、水質、地質、文化財等の事業リスクに適切に対応するとともに、物価高騰リスク低減などのために、早期に完成できるように取り組まれない。

6 委員会での主な意見

■主要地方道網野岩滝線（男山バイパス）道路整備事業【事前評価】

（委員）

事業地周辺は良質な水や土壌に恵まれ、工事による水質汚濁等が懸念されるが、調査等を行っているか。

[京都府]

道路工事を含む公共工事において、水道水源や水質への影響が生じてはならないと考えている。今回の工事においても、着手前にリスクの有無を事前に調査したうえで工事を進める。

（委員）

トンネル工事は古墳への影響はないのか。

[京都府]

文化財を所管する部署との協議において、古墳のかなり下を通過するトンネル計画のため、現時点では影響がないことを確認している。ただし、施工方法によっては影響が出る可能性もあるため、その場合は調査が必要になる可能性がある。

（委員）

リスク要因を考慮すると、トンネルや橋梁等の構造物が多いB案より、A案が経済的で優位になることはない。

[京都府]

リスクを加味した事業費で3案比較を行っており、リスク要因を考慮してもB案が最も経済的であると判断している。

(委員)

この地域はかつて丹後王国と呼ばれたエリアであり、未発見の古墳が存在する可能性もある。新たな遺構等が発見された場合には、適切な対応が取られるという理解でよいか。

[京都府]

現時点では文献調査により古墳の位置を把握しているが、設計や現地での工事準備段階において新たな遺跡が出てくる可能性はある。文化財を無断で掘削すると文化財保護法違反となるため、文化財所管部局と調整し、必要な調査や保全措置を講じたうえで工事を進めていく。

(委員)

リスクを事業費に上乗せするという考え方は、これまであまり行われてこなかったと思うが、今後はリスクを計上する運用へと移行した、あるいはその方向性で進んでいくという理解でよいか。

また、希少種について「周辺で生息・生存が確認されている」との説明があったが、具体的にどのような種が確認されているのか伺いたい。

[京都府]

1点目のリスクの上乗せについては、従前は指摘のとおり計上していなかった。そのため、事業再評価の段階で事業費が大きく増加するケースが多く見られた。これを防ぎ、リスクが発生しても想定内であることを示すため、事前にリスクを計上する手法を取り入れている。今後も把握可能なリスクについては可能な限り費用に反映していく方向である。

2点目の希少種については、〇〇〇〇*の生息が確認されている。

※希少種の生息状況については盗掘・乱獲のおそれがあるため詳細情報を非開示とする。

(委員)

必要な場合は、保護のための適切な対応を検討していただきたい。

(委員)

地質に関するリスクについては、これ以上の詳細調査が難しいのであれば、現時点のリスク評価は妥当であると考え。一方で、トンネル工法については、CⅡで決定するとCⅠの領域に移行することはほとんどない。CⅠとCⅡではコスト差が大きいため、発注前に工法の妥当性をよく検討されたい。

埋蔵物については、坑口付近は浅いため発見の可能性はあるが、深部へ入ればリスクは小さくなると考える。むしろ、橋梁基礎のほうが、委員が指摘した水の問題も含め、集水地形が形成されるためリスクが大きいと感じる。

過去には、ダム工事で希少種を一旦すべて保護し移送した事例もあり、その際の最大のリスクは工期の遅延であった。工期が延びれば、資材価格が上昇している現状ではコスト増につながる。事業着手の順序を含め、地質・埋蔵物・水などのリスクが工期延長につながらないように計画することが、事業の適正化には極めて重要である。

[京都府]

今後、工事着手前に実施するさまざまな調査の進め方や、影響の少ない箇所から工事に着手するなど、できる限りの工夫をしながら進めていきたい。

(委員長)

水質に関する懸念、文化財保護、希少種保護、さらに地質リスクの指摘など、いずれも事業費や事業期間の変更につながる可能性のある重要事項であり、しっかり対応する必要がある。

また、工期遅延がコスト増につながる点についても意見があったので、実施にあたっては進め方を工夫してほしい。

事業化にあたっては、本日の意見を参考にしながら、B案を採用し進めていただきたい。

(以上)